

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

美術

自分なりの美しさを探し、言語化する活動で、
自分だけの価値を創り出す

愛媛県立三島高校

内海篤彦 うつみ あつひこ

本時の概要

〔対象／教科／科目〕2年生／芸術／美術Ⅱ
 〔分野・単元〕鑑賞（本時は、全2時間のうちの2時間目。P.43に単元の指導計画を掲載）
 〔育成を目指す資質・能力〕思考力、表現力、多様性
 〔学習内容〕チョウの羽をかたどった穴を開けたカードを制作した後、それを使って、校内の様々な造形の要素から、自分が最も美しいと感じるチョウを探索。自分が美しいと感じた点について造形の要素などの根拠を示しながらワークシートにまとめ、その内容をグループのメンバーと共有した。

主 主体的な学び
 対 対話的な学び
 深 深い学び

14:45 チョウのカードを制作



主

内海先生は、「世界のすべてをチョウに変える装置を作って、自分のチョウを見つけよう」と、本時の活動について説明。生徒は、画用紙にチョウを描き、羽の部分切り抜いたカードを制作した。タブレット端末でチョウの画像を検索し、それを参考にしながら描く生徒もいた。

本時のキー課題

15:10 美しいと感じたチョウの姿を撮影



主

対

生徒は、自分が最も美しいと感じたチョウの姿をタブレット端末で撮影。その際、役割分担をするなど、協力合せて撮影した。撮影後、自分が見つけたチョウについての説明をワークシートに記入。撮影対象を観察し、造形要素の素材などを確認しながら、自分の感覚を言語化していった。

うつみ・あつひこ 教職歴17年。同校に赴任して9年目。芸術科主任。公益財団法人電通育英会「リーダー育英塾」への参加や他校の研究授業などを通じて、高校の美術教育の果たす役割について考えを深め、現在の教育観、授業観を確立。

学校概要

◎校訓は「学び 鍛えよ 歴史を刻んだくすの木とともに」。普通科6クラス、商業科1クラスを擁し、時代の流れを見据えた教育活動を展開。旧制中学校の流れをくむ伝統校として東予地区の人材育成に尽力し、卒業生総数は3万人を超える。2021年にノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎氏の母校。

◎設立 1923（大正12）年

◎形態 全日制／普通科・商業科／共学

◎生徒数 1学年約250人

◎2021年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、北海道大、横浜国立大、大阪大、岡山県大、山口大、徳島大、香川大、愛媛大、高知大などに48人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、龍谷大、近畿大、関西学院大、松山大などに延べ214人が合格。



15:05 自分だけのチョウを探す



「美しいと感じたり、心が動いたりするものを探して、5分後に最もよいと思ったものを1つ選んで戻ってきましょう」と内海先生から指示を受けて、生徒は活動を開始。校内を歩いて、地面や空、窓、木など、思い思いにカードをかざし、自分が最も美しいと感じるチョウになるものを探した。

主

15:00 本時のねらいを説明



生徒が制作したカードとタブレット端末を持って教室の外に出ると、内海先生は、モニターに「美しいものがあるのではなく、美しいと感じる心がある」と映写。「この意味が分かりますか」と問いかけ、少し間を置いてから、「自分が感じる美しさを見つける」という本時のねらいを説明した。

主

15:32 美しいと感じた点を発表し合う



自分が美しいと感じた点について、「大小の多様な石の不規則な模様が美しいと感じた」などと、グループ内で発表し合った。内海先生は、「見方を変えると、世界の見え方が変わりますね」と伝え、本時の活動で気づいたことをワークシートに記入する宿題を課した。

主

対

深

15:25 ワークシートへの記入



教室に戻り、ワークシートへの記入を続けた。内海先生は、「イラストや記号を使ってもよいので、相手に伝わるように書いてください」とアドバイス。さらに、「できるだけ具体的に色や素材を表現しましょう。ザラザラなど、擬音を使うのもよいですね」などと、言語化のヒントを示した。

深

●私が目指す授業
「造形的な見方・考え方」を通じて、日常を捉える体験を積む

以前の私には、「美術の授業は、生徒にとって癒やしや気分転換の時間だ」と、心のどこかで思っていたところがありました。生徒に育成する資質・能力はあまり意識せず、授業では、絵画や彫刻などの作品制作ばかりを行っていました。生徒は楽しそうでしたが、「活動あって学びなし」の状態でした。しかし、他校の研究授業や外部研修に参加する中で、明確な目標を持って授業をデザインし、教師がファシリテーターとして生徒に学びを促すことで、美術の授業でも多様な資質・能力を育てるのだと理解していきました。

現在は、生徒が他者や世界と向き合う中で、自己理解を深め、自分なりの意味や価値を創り出す体験ができる授業づくりを目指しています。どのような題材でも、個人で考えた後、生徒同士で対話をして考えを深め、再び個人で自己の気づきを振り返るといった授業展開にしています。

芸術とは、自分なりの見方・考え方を通して、私たちが生きる物理的

な世界とは異なる世界を生じさせる働きだと、私は考えています。新学習指導要領が示している「造形的な見方・考え方」は、そうした独自の世界をより鮮明に生じさせて操るための基盤となる視点や概念であり、その「造形的な見方・考え方」を身につけ、日常生活や他教科の学びを相互に関連づけて考える力を育むことが、美術教育の役割だと捉えています。

●私の発問・課題設定の観点

自分なりの美しさを持ち、言語化して伝える力を育む

本時では、「造形的な見方・考え方」を促すツールとして、チョウの羽をかたどった穴を開けたカードを用いました。そのツールを通して世界を見ると、普段見ている風景が異なっ
て見えることに気づかせたいと考えたのです。

本活動を効果的に行うためには、「美しさ」について考えを深めることが欠かせません。一般的に、芸術作品は、希少性の高いものや高額なものに高い価値があると見なされます。そうした価値観に影響を受けて、大半の生徒は、個人が感じる美しさ

の価値に気づいていません。活動の前に、「美しいものがあるのではなく、美しいと感じる心がある」と伝え、自分が美しいと感じたものが美しいものであることを意識させました。さらに、美しいと感じるチョウになるものを探す最初の段階では1人で行動するよう指示し、他者の考えに影響されないようにしました。

多くの生徒が、最初は花などの一般的に美しいとされる対象に着目していましたが、カードを様々なものにカざしていくうちに、自分なりの美しさを探すようになっていきました。印象的だったのは、水たまりに浮かぶ藻に太陽の光が反射する様子を撮影した作品です(写真)。素通りしてしまいがちな風景が、見方を



写真 水たまりに浮かぶ藻に太陽の光が反射する様子に着目して撮影した作品。

ワークシート

■次の問いについて、イラストや言葉を用いて分かりやすく答えてください。

- あなたが選んだチョウは、どこにいましたか？
- あなたが選んだチョウはどんなチョウですか？(例：何？どんな質感？どんな色？どんな組み合わせ？)
- あなたはなぜそのチョウを選んだのですか？あなたの心はどう動いていましたか？

① 多量の入り口の役割
② 威嚇や警戒のための目の役割
③ 飛行のための役割

鳥は食べられかたに目、口、模様がある。チョウはかたがた、いますね。鳥はヒトリ王様だ。

④ 羽の役割

⑤ 羽の役割

⑥ 羽の役割

■グループワーク後、次のポイントをふまえて本日の振り返りをしてください。

- 他の人が選んだチョウを紹介してもらい、感じたこと、考えたこと
- 普段の生活とは違う見方で世界を見る体験を通して、感じたこと、考えたこと

① どのチョウも、みんな生きてるチョウがいる。

② 1つの動物でも、一生を繰り返して見ると全く違うものに見える。その中で、みんな生きてるチョウがある。

③ 自分たちは動物で見ていくと、人それぞれ、考える、経験とかがあって、おもしろい。

④ 同じものを見ている、同じものを考えているのは面白い。その中で、みんな生きてるチョウがある。その中で、みんな生きてるチョウがある。その中で、みんな生きてるチョウがある。

※学校資料をそのまま掲載。

変えたことで自分なりの美しいもの
に変わった。まさに、「造形的な見方・
考え方」を用いて新たな価値を創り
出したと言えます。

自分が感じた美しさを明確化させる
ために、撮影した作品を言語化させ
る個人ワークも行いました(図)。
美術の科目特性として、イラストや
記号も言語と捉えて自由に表現させ
ました。そうして言語化した情報を
基に、自分と他者の感じる美しさの
違いに気づけるよう、グループ内で
作品を共有する機会も設けました。
そして、一連の活動で得た気づきを
振り返る個人ワークは、授業時間の
関係で宿題としました。

●成果と展望

違いを楽しみ、他者の見方・
考え方を尊重する生徒たち

生徒同士で作品を見せ合うと、以
前は、上手かどうかといった技術や
手先の器用さに関する発言が目立っ
ていましたが、作品制作にとどまらず、
表現活動における言語化や対話を取
り入れた結果、「面白い」「何で？」「な
るほど」といった発言が多く聞かれ
るようになりました。自分とは異なる
の視点を楽しみ、互いの見方・考え
方を尊重する姿勢が身につけている
様子が見えられます。他者との対話
を繰り返す中で、生徒の発言の量が

VIEWn-expressでは、
本時の授業の様子を
ダイジェスト動画で紹介！
< 12月21日公開予定 >

VIEW n-express 検索



増え、質も向上しています。美術の授業で培った力が、美術以外の学びも支え、多様な資質・能力を育んでいると確信しています。

授業で美術の面白さに目覚め、私が顧問を務める美術部に入部したり、美術系大学を志望したりする生徒が増えていることも、美術の担当教師としてうれしい限りです。

学習評価については、ワークシートを基に言語化のプロセスを確認するなど、形成的評価を重視しています。ただ、成果物としての作品をどのように評価するか、生徒間の言語能力の差をどう判断するかといった課題が残っています。そうした課題を踏まえながら、生徒一人ひとりに寄り添い、思考力や表現力を高めていく指導と評価をこれからも追究していきます。

単元の指導計画

【教科・科目】芸術・美術Ⅱ 【分野・単元】鑑賞 【テーマ・作品】「自分」をつくりだす鑑賞 【設定時数】全2時間（本時は2時間目） 【単元目標】「造形の要素」を根拠として生徒自身が「自分の見方・考え方・答え」を獲得し、自己理解及び他者理解を深める。

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	<p>「どういう状況？どんな気持ち？美術作品から物語を読み取ろう～自己理解、他者理解を深めるための対話型鑑賞～」</p> <p>※〈表現：絵画・彫刻〉絵で伝えよう～記号を用いた表現の基本・実践～の次に実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美術作品を鑑賞し、解釈の根拠を造形的な特徴（事実）と結びつけて言語化できている。 他者の視点を理解しようとしている。 <p>【思考力、表現力、多様性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①多様な解釈ができる美術作品（本時では、メッサーシュミット「性格表現の頭像」の写真）を用いて、「どういう状況？どんな気持ち？」を直感（いわゆる、森の視点）で捉える。 ②①で捉えた直感を、客観的な細部の事実（いわゆる、木の視点）と関連づけながら細かく解釈する。 ③グループのメンバーと、互いの解釈を共有。それぞれが根拠とした事実を確認し合い、視点を交換しながら、相互理解を深める。 ④「同じものを見ている、同じものが見えているとは限らない」という事実を確認した後、自分の視点を相対化し、メタ認知する。 	<p>【主体的な学び】生徒が関心を持ちそうな美術作品を題材に選ぶ。</p> <p>【対話的な学び】他者に伝えたい自分の解釈をまとめる個人ワークを行った上で、他者との対話を行う。1つの事実からも様々な解釈が生まれることを前提に対話の環境を整える。</p> <p>【深い学び】「直感→解釈」の思考の流れだけでなく、「解釈→直感」のサイクルを回せるような声かけをする。</p>	<p>解釈の根拠を造形的な特徴（事実）と結びつけて言語化する、他者の物語を理解しようとする、他者の視点を共有しようとするといった目標と、ワークシートに記述された生徒の思考の流れを照らし合わせて評価</p>
2	<p>「自分のチョウを見つけよう～造形的な見方・考え方で世界を見てみよう～」</p> <p>※〈表現：絵画・彫刻〉生き物を空想して表す～空想むし学会への報告～の間に実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 造形的な見方・考え方で世界を見ようとしている。 自身の判断の根拠を造形的な特徴（事実）と結びつけて言語化できている。 他者の視点を理解しようとしている。 <p>【思考力、表現力、多様性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①造形的な見方・考え方を促すツールとして、チョウの羽をかたどった穴を開けたカードを制作する。 ②校内を歩き、①のカードを使って、自分が美しいと感じる「造形の要素」を探し、風景を羽に見立てた自分のチョウを見つける。 ③自分が最も美しいと感じたチョウの姿をタブレット端末で撮影する。 ④撮影したチョウについて、自分が美しいと感じた点を、「造形の要素」などの根拠とともに、言語やイラスト、記号などを用いてワークシートに整理する。 ⑤グループのメンバーと、各自が見つけたチョウを共有した後、それぞれのチョウの風景を確認する。 ⑥自分と他者が感じる美しさの違いや、「同じものを見ている、同じものが見えているとは限らない」という事実を確認し、それらの気づきを生活の中でどう生かしていくのかを考える。 	<p>【主体的な学び】自己決定の機会を多く設け、学んだことを言語化させ、自身の学びを自覚させる。</p> <p>【対話的な学び】他者に伝えたい自分の解釈をまとめる個人ワークを行った上で、他者との対話を行う。1つの事実からも様々な解釈が生まれることを前提に対話の環境を整える。</p> <p>【深い学び】他者との違いをエネルギーとし、「直感→解釈」の思考の流れだけでなく、「解釈→直感」のサイクルを回せるような声かけをする。</p>	<p>生徒が見つけた自分のチョウ（自分の見方）を、言語やイラスト、記号などで表現し、造形の要素などの根拠とともに整理したワークシートを基に評価</p>

※内海先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。